

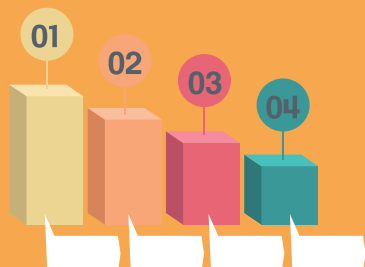
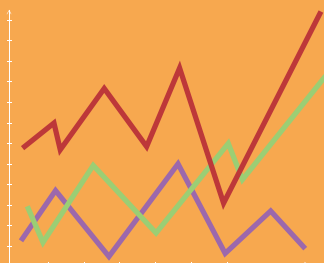


誰もが自分らしくのびやかに暮らせる まちをつくるためのアンケート調査

— 田尻町男女共同参画社会づくりに関する意識調査 —

結果報告書

概要版



2024（令和6）年3月
田 尻 町



I 調査の概要

1. 調査の目的

「第2次田尻町男女共同参画プラン」の計画期間が2024（令和6）年度に終了することから、新たなプランの策定に向けて、町民と町職員の男女共同参画に関する実情や意識を把握するために調査を実施しました。

※この概要版には、町民意識調査の結果のみ掲載しています。

2. 調査実施概要

	町民調査	職員調査
調査対象	18歳以上の町民1,500人(1,350人+150人)※ (2023(令和5)年11月1日現在)	田尻町職員131人
調査方法	郵送配布・郵送回収及びインターネット回答、 葉書による督促1回	直接配布・回収箱への投函による回収及び インターネット回答
調査期間	2023(令和5)年12月1日～20日	2023(令和5)年12月1日～20日
回収結果	524件(34.9%) (499件/1,350件と25件/150件の合計)	103件(78.6%)

※町民意識調査では、回収率が特に低い20歳代150人を追加抽出し年齢別集計のみに用いました。全体集計、性別集計では年齢構成に応じて無作為抽出した標本数1,350人（有効回収数499人）のみを用いています。

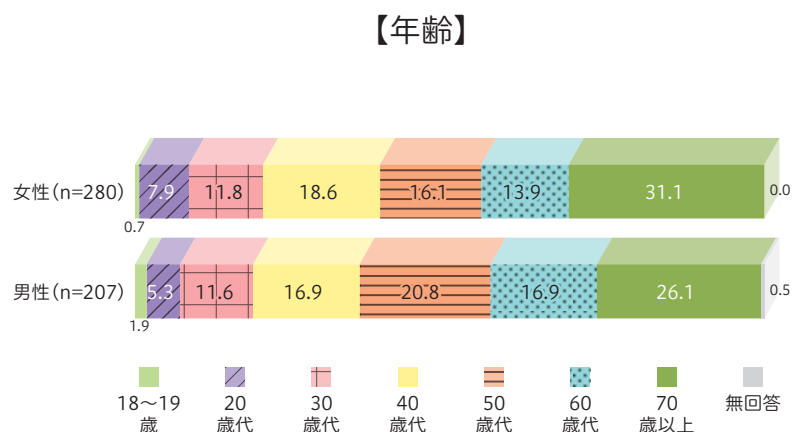
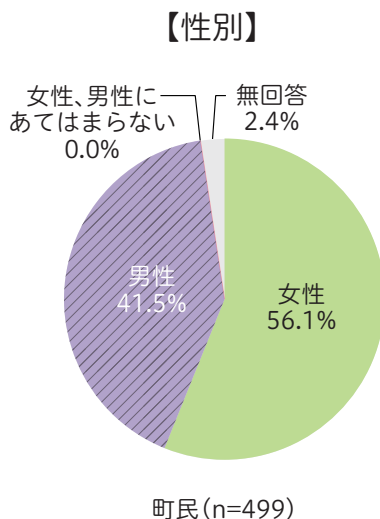
3. 報告書の見方

- ・図表中の「n」とは、集計対象者の人数です。図表の数値(%)は、四捨五入の結果、合計が100%にならないことがあります。また、複数回答では、合計が100%を超えます。
- ・一部のグラフで回答が少ない選択肢を省略している場合があります。
- ・くわしくは町ホームページから報告書本編をご覧ください。→



II 町民意識調査の結果

回答者の属性





家庭での役割について

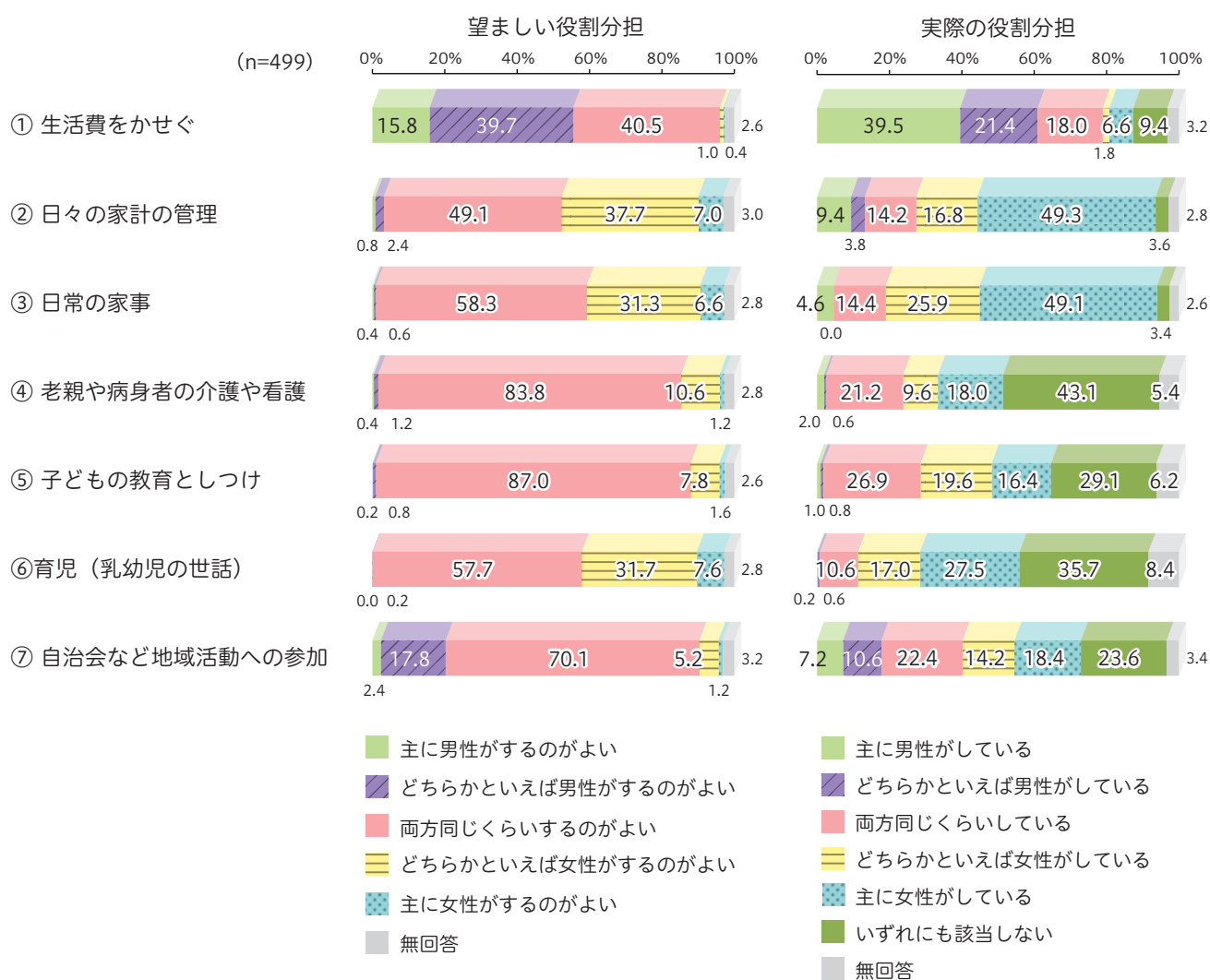
(1) 家庭の仕事の役割分担

◇理想は男女同じくらいするのがよいの回答が多いが、現実の役割分担には偏りがある

理想では、④老親や病身者の介護や看護、⑤子どもの教育としつけ、⑦自治会など地域活動への参加の3項目では、男女両方同じくらいするのがよいとする回答が7割以上と高くなっています。一方で、①生活費をかせぐことに対しては、男性がするのがよいが5割を超えており、②日々の家計の管理、③日常の家事、⑥育児(乳幼児の世話)に対しては、女性がするのがよいとする回答が、いずれも4割前後と高くなっています。

実際の役割分担では、すべての項目で男女両方同じくらいの割合は大幅に低く、男女の役割分担の偏りが顕著になっています。

【望ましい家庭の仕事の役割分担と実際の家庭の仕事の役割分担】

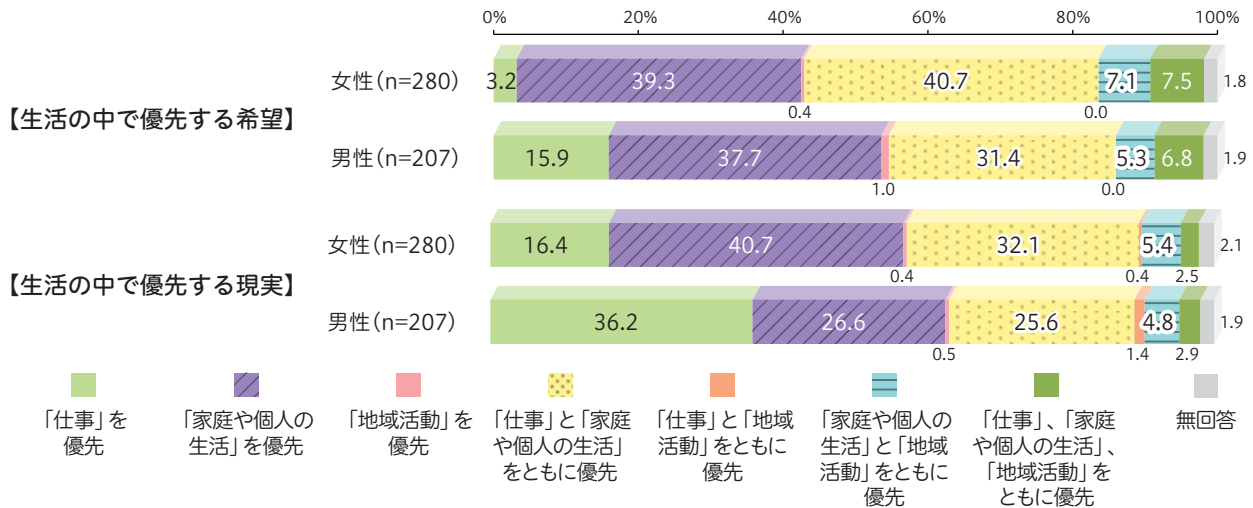




(2) 生活の中で優先すること

◇希望に比べて現実ではワーク・ライフ・バランスが叶えられていない

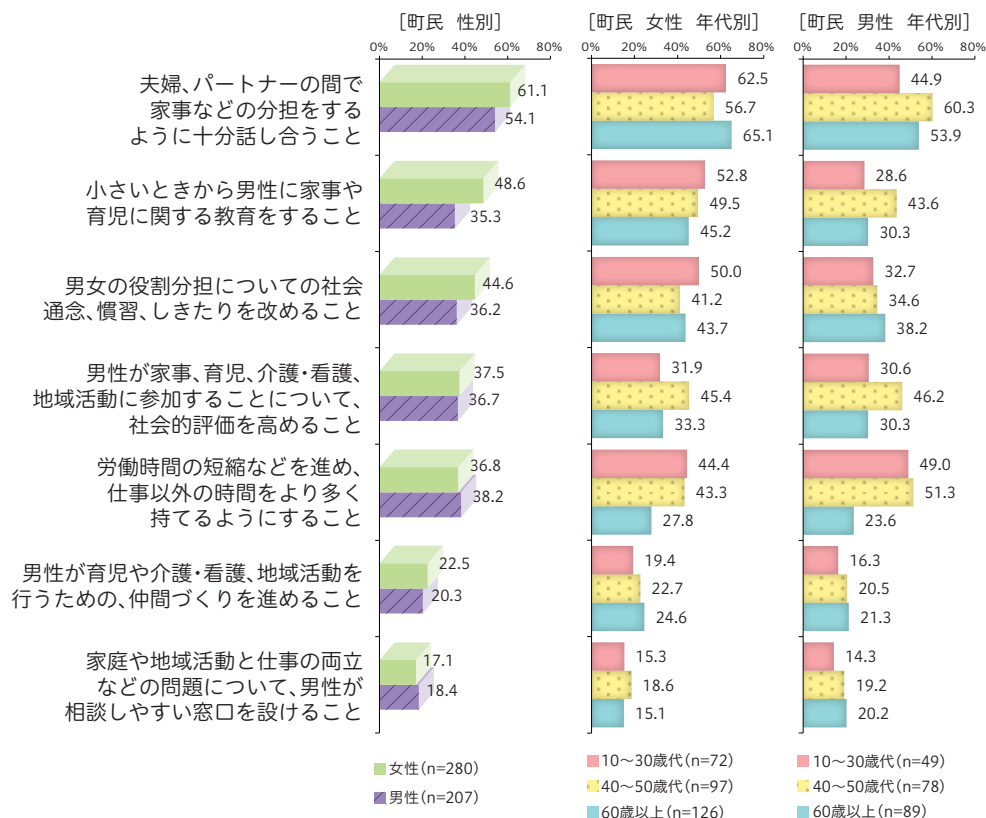
生活の中で優先したい希望を複数挙げている人の割合は、男女とも4～5割台ですが、現実では複数優先できている人は希望に比べて少ない一方で、男女とも仕事を優先している割合が高くなっています。特に男性でその傾向が顕著です。



(3) 男性の家事などへの参加に必要なこと

◇家庭での男女共同参画に必要なことは、夫婦・パートナー間の話し合い

「夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」が第1位に挙げられています。年代別では男女とも50歳代以下では「労働時間の短縮などを進め、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が60歳以上と比べて高くなっています。



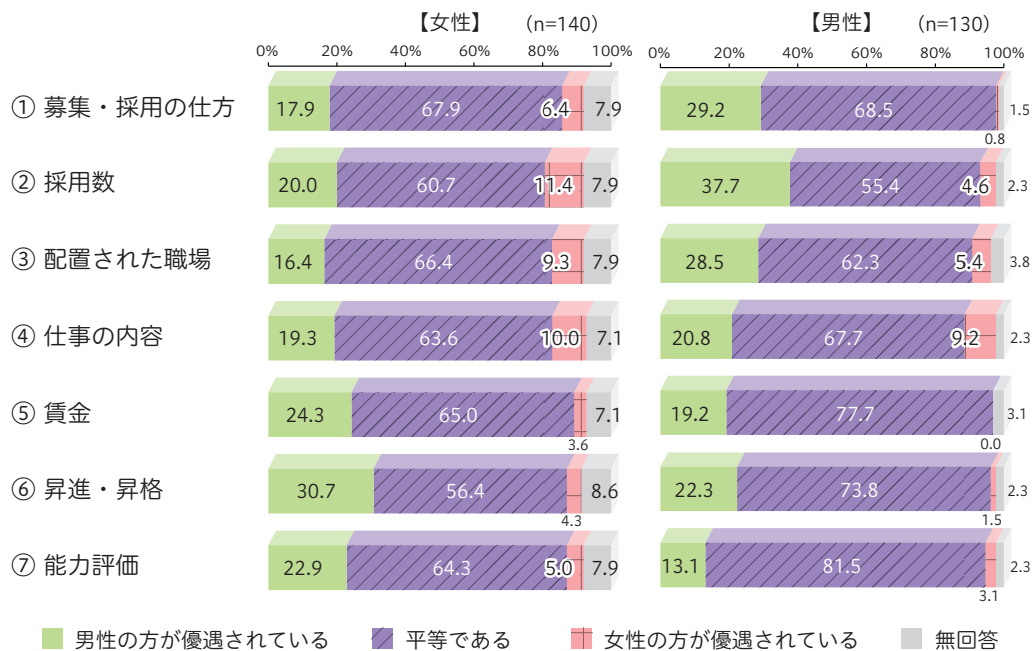


仕事・生き方について

(1) 職場において男女格差を感じること

◇男性自身も職場で男性が優遇されていると感じることがある

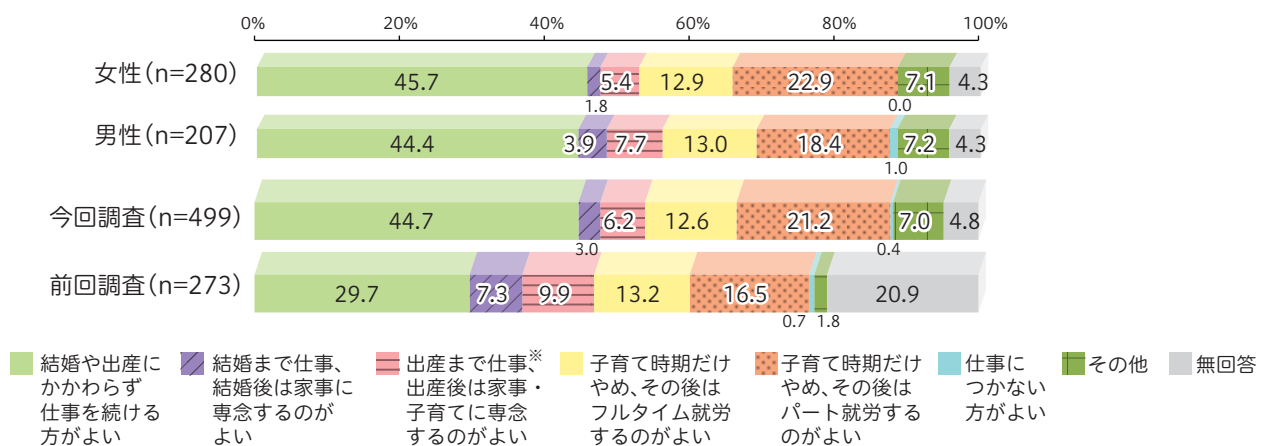
男女ともいずれの項目も概ね「平等である」が6割台以上ですが、女性では⑤賃金、⑥昇進・昇格、⑦能力評価において男性優遇感が高く、一方、男性では①募集・採用の仕方、②採用数、③配置された職場、④仕事の内容において男性優遇感が高くなっています。女性が優遇されているとの回答もみられますが男性優遇に比べるとわずかです。



(2) 女性の働き方についての考え

◇女性の働き方に対する考えには変化がみられる

男女とも「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける方がよい」が半数近くを占めており、前回調査と比べると15.0ポイント高くなっています。女性の就労継続に対する意識の変化がうかがえます。





性について

(1) 性自認・性的指向で悩んだことがあるか

◇若い年代では悩んでいる人が一定割合みられる

10～30歳代では、女性で9.7%、男性で4.1%の人が、性自認(自分で自分の性別をどう思うか)または性的指向(どんな性別の人を好きになるか)に悩んだことがあると回答しています。

【コラム】SOGI(ソジ、ソギ)

SOGI:性的指向(Sexual Orientation)と性自認(Gender Identity)の頭文字をとって、すべての人の性のあり方を示す言葉として使われるようになっていきます。性別表現(Expression)を含めてSOGIE(ソジー)と表現することもあります。LGBT(レズビアン・ゲイ・バイセクシュアル・トランスジェンダー)等の性的マイノリティだけではなく少数派、多数派にかかわらず、すべての人が持つ属性として平等、人権の尊重の視点に立って考えようとする言葉です。

子どもの育て方や教育について

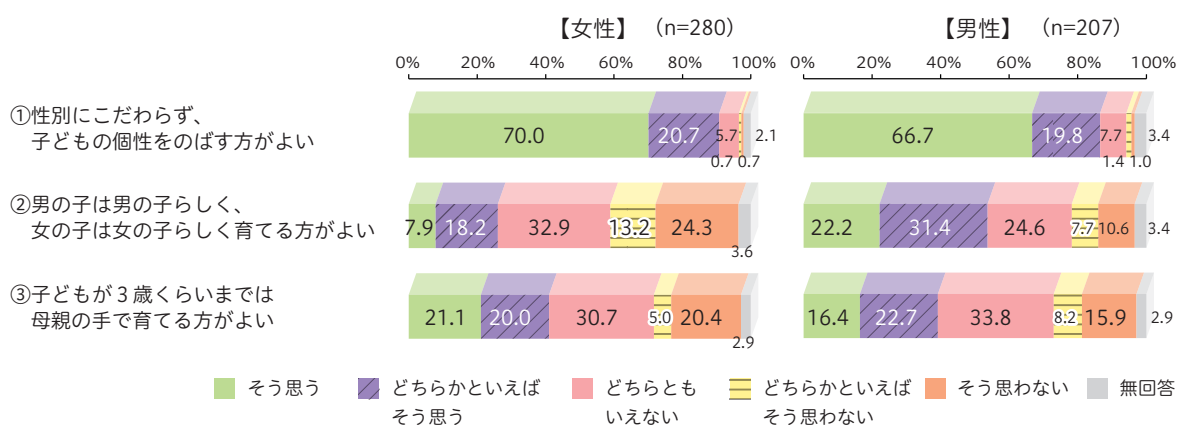
(1) 子どもの教育方針

◇子どもの個性をのばすことには肯定的だが、男らしさ、女らしさの意識は男性に根強い

男女ともほとんどの人が「①性別にこだわらず、子どもの個性をのばす方がよい」に肯定的であるのはジェンダー平等の傾向といえます。しかし一方で、男の子らしく、女の子らしく育てる方がよいという意識が、特に男性に強い傾向もみられており、子どもの性別によって育て方が異なる場面もあることがうかがえます。

◇3歳児神話は男女ともに一定割合存在している

乳幼児の世話は母親がするものといった性別で役割を固定化する意識は、男女双方にみられます。



【コラム】3歳児神話

「子どもが健やかに成長するためには、3歳までの母性的養育が必要」(愛着理論)と提唱されたことが、日本では母性が強調され、3歳までは母親の手で育てるべきという考え方になったと言われています。本来の「愛着理論」は、子どもからの働きかけに対して「いつも」応答的であることが大切という考え方なので、愛着関係を育むのは、母親だけに限らず、誰か1人だけということでもないので。

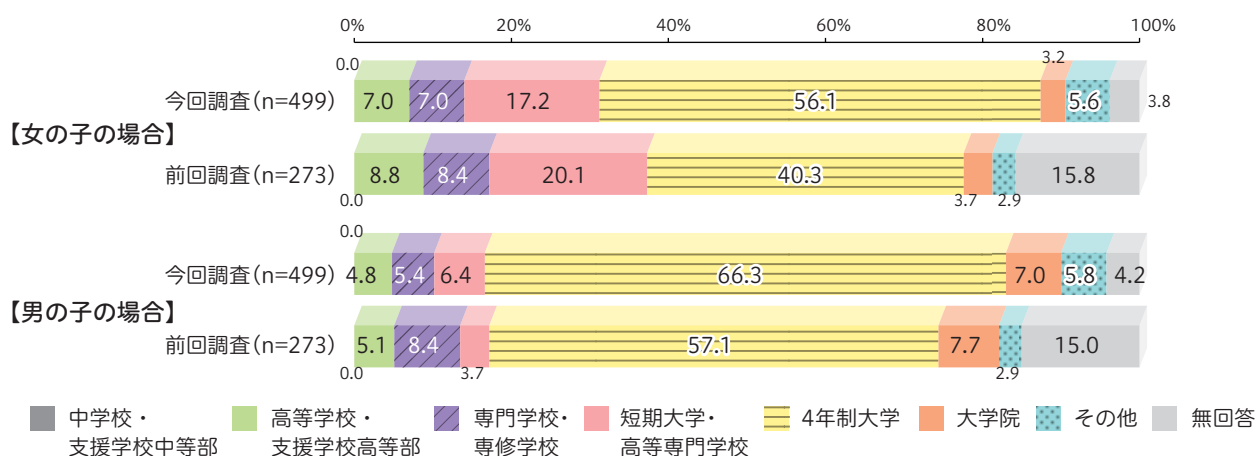


(2) 子どもに受けさせたい教育

◇女の子より男の子のほうにより高い学歴を期待する傾向は残るが、その差は縮小傾向

今回調査で女の子の場合と男の子の場合を比べると、女の子に比べて男の子に対する方がより高学歴を期待していることがわかります。

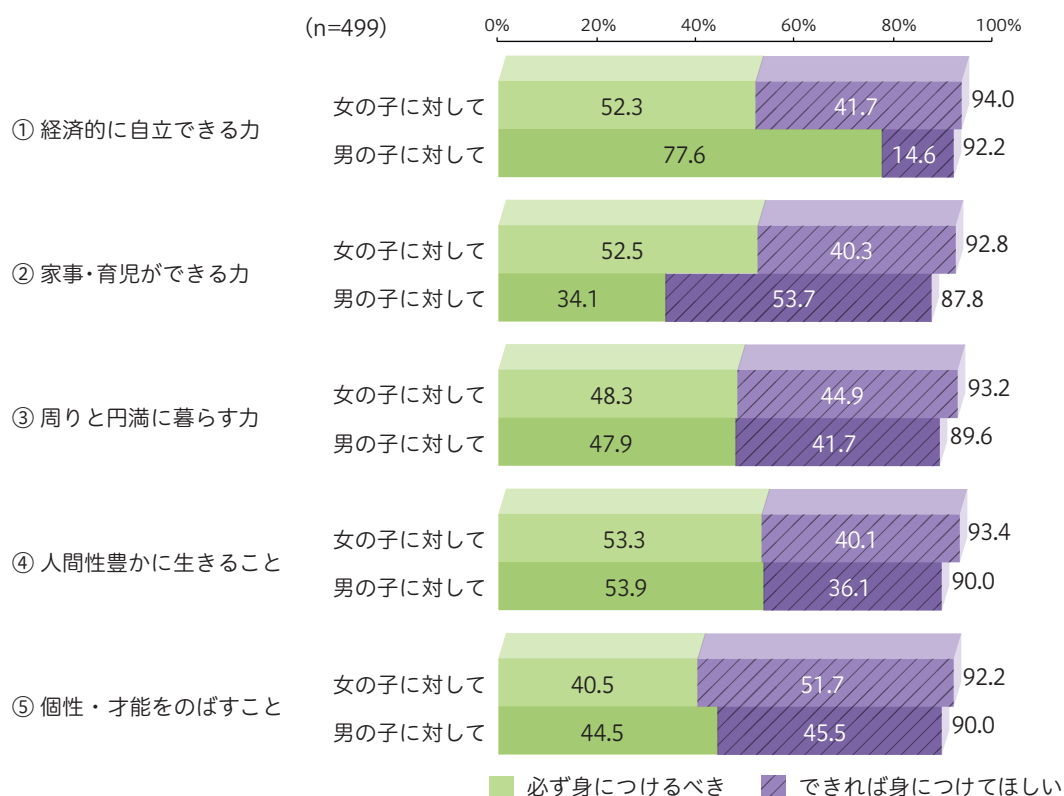
前回調査と比べると、女の子にも男の子にも大学以上を期待する割合が高くなっていますが、特に女の子で大きく上昇して、男の子との差が小さくなっています。



(3) 子どもに身につけてほしいこと

◇女の子と男の子では、経済的自立と家事能力に期待の差

①経済的に自立できる力は、男の子に対してより期待が大きく、②家事・育児ができる力は、女の子に対してより期待が大きくなっており、女の子と男の子では期待することに違いがみられています。



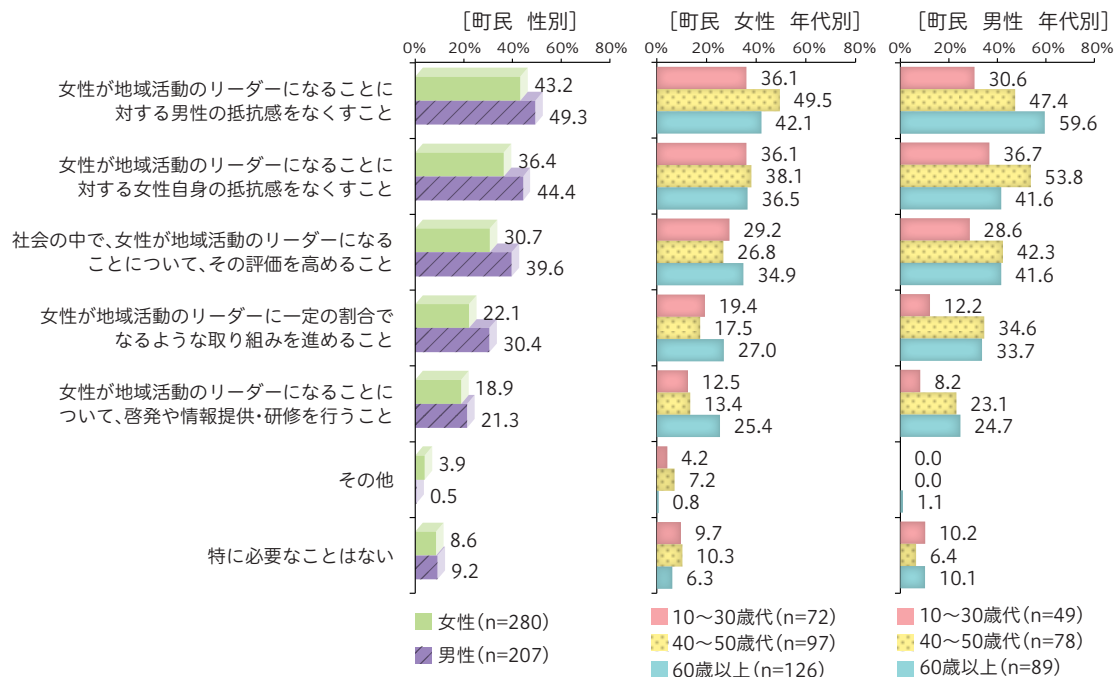


地域活動・防災について

(1) 地域活動における女性リーダーの増加に必要なこと

◇女性リーダーの増加には、男性・女性双方の意識を変えることが必要

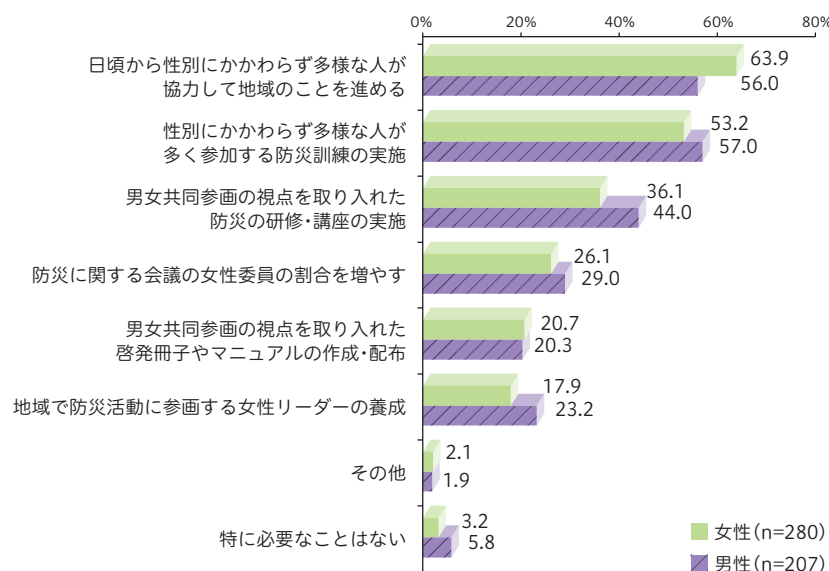
男女とも「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」が最も高くなっています。年代別でみると、男性の40歳代以上はいずれの選択肢の回答も高くなっており、この年代の男性が地域の女性リーダー増加に対して課題が多いと感じている傾向がうかがえます。



(2) 性別や多様性に配慮した災害対応に必要なこと

◇地域防災には日頃からの協力や活動と男女共同参画の視点が重要

男女とも「日頃から性別にかかわらず多様な人が協力して地域のことを進める」「性別にかかわらず多様な人が多く参加する防災訓練の実施」「男女共同参画の視点を取り入れた防災の研修・講座の実施」の3項目が上位に挙げられています。



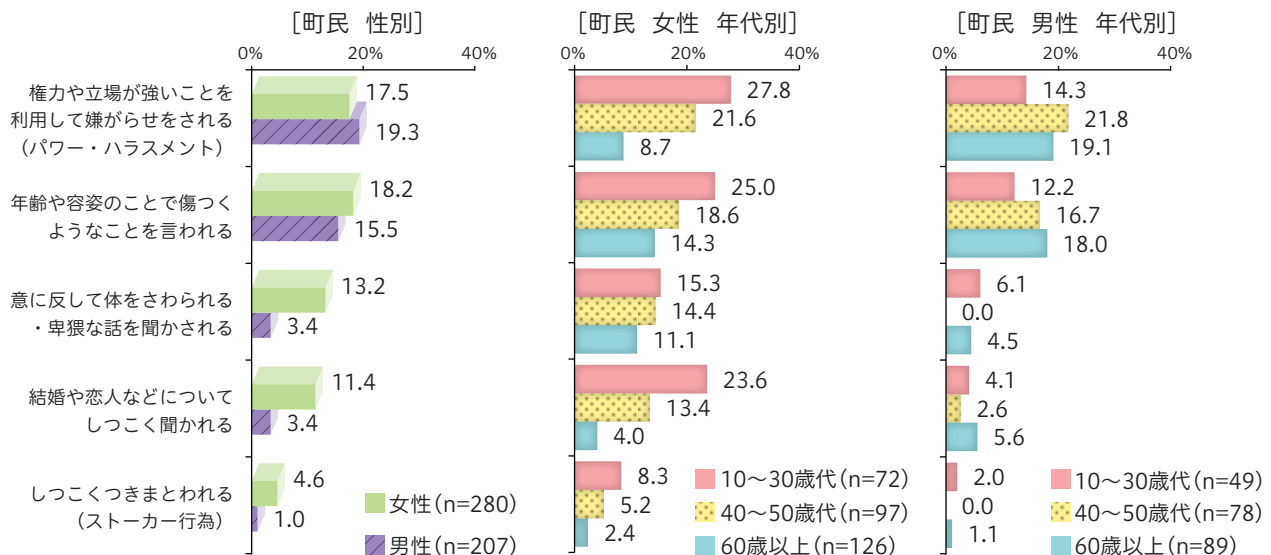


人権を侵害される行為について

(1) ハラスメント等を受けた経験（上位 5 項目）

◇セクシュアル・ハラスメントを受けるのは女性が多く、パワー・ハラスメントは男性も多い

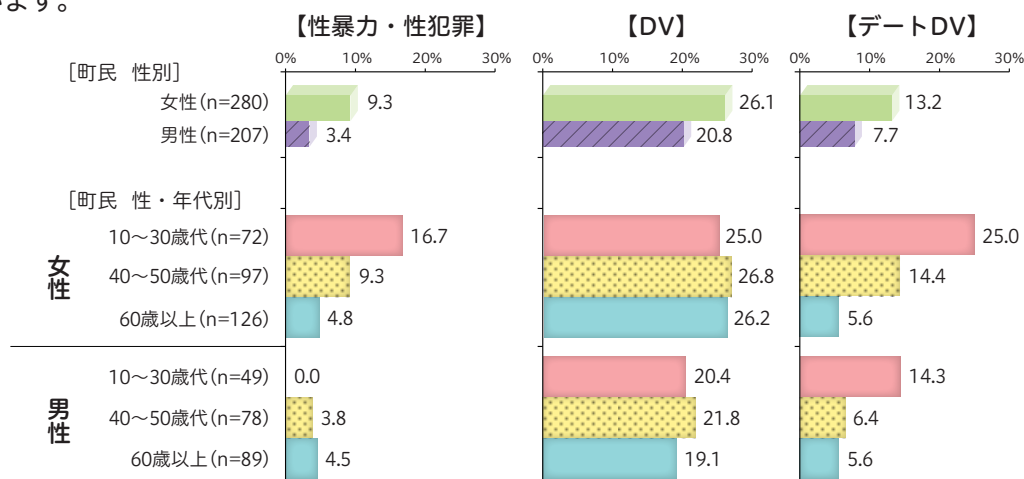
ハラスメント等を受けた経験では、パワー・ハラスメント以外はすべて女性の方が高く、また、女性は年代が若いほどハラスメント等を受けた経験が多くなっています。



(2) 性暴力・性犯罪、DV、デートDVを受けた経験

◇女性に多い性暴力、DVの被害

望まない性的な行為を受けた経験は女性の方が多く、なかでも10～30歳代では16.7%にのぼっています。配偶者・パートナーからDVとなる行為を受けた経験のある人は、女性26.1%、男性20.8%となっており、交際相手からデートDVとなる行為を受けた経験のある人は、女性13.2%、男性7.7%となっています。



DV、デートDVとなる行為を受けた経験のある人は、以下の行為のうちどれか1つでも受けたことがある人を指します。

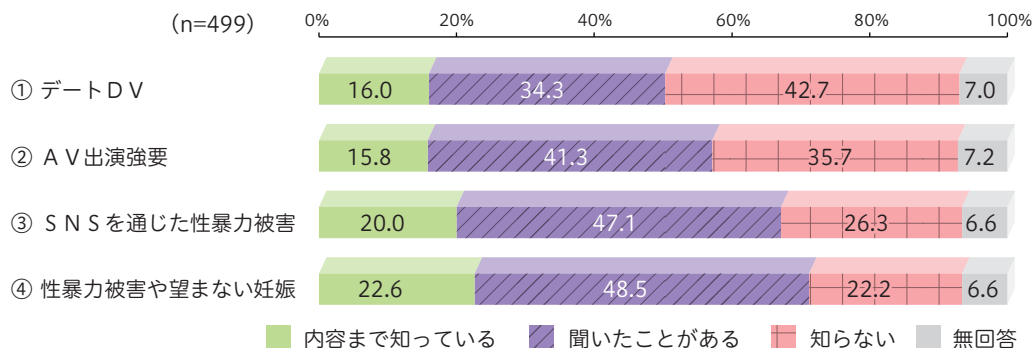
- ① ながる、ける、物を投げる、突き飛ばすなどの身体に対する暴行
- ② 生活費を渡さない、借金を肩代わりさせる、金品を要求するなど経済的に困らせる
- ③ 人格を否定するようなことを言う、ながるふりをしておどす、長時間無視するなどの精神的な嫌がらせ
- ④ 嫌がっているのに性的なことを強要したり、避妊をしてくれない
- ⑤ 身内や友人とのつきあいを制限したり、交友関係や行動を細かく監視する



(3) 若年女性が被害に遭うことが多い問題の認知度

◇半数以上が認知しているものの、内容まで知っている人は2割程度

「内容まで知っている」割合は、4項目とも2割程度にとどまっています。



(4) 相談窓口で配慮してほしいこと

◇匿名で相談できる配慮が最も求められている

ジェンダーにもとづく暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことでは、「匿名で相談ができる」(54.3%)、「弁護士など、法的知識のある相談員がいる」(44.9%)、「同性の相談員がいる」(43.9%)、「24時間相談ができる」(41.7%)などが上位に挙げられています。

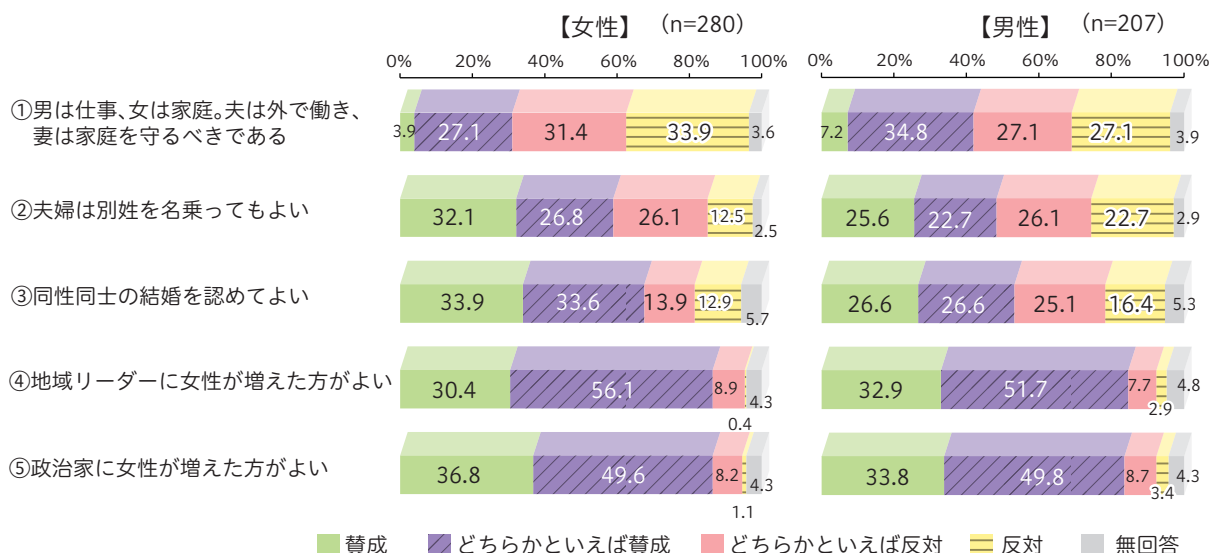
男女共同参画社会づくりについて

(1) 結婚や家庭、女性の参画に関する考え方

◇性別分担意識、夫婦別姓、同性婚に対しては男女で意識の違い

性別役割分担意識(①男は仕事、女は家庭。夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである)、夫婦別姓(②夫婦は別姓を名乗ってもよい)、同性婚(③同性同士の結婚を認めてよい)では、男性に比べて女性の方がジェンダー平等の意識が高い傾向がみられます。

女性の活躍(④地域リーダーに女性が増えた方がよい、⑤政治家に女性が増えた方がよい)に対しては、男女とも大多数が賛成と回答しています。

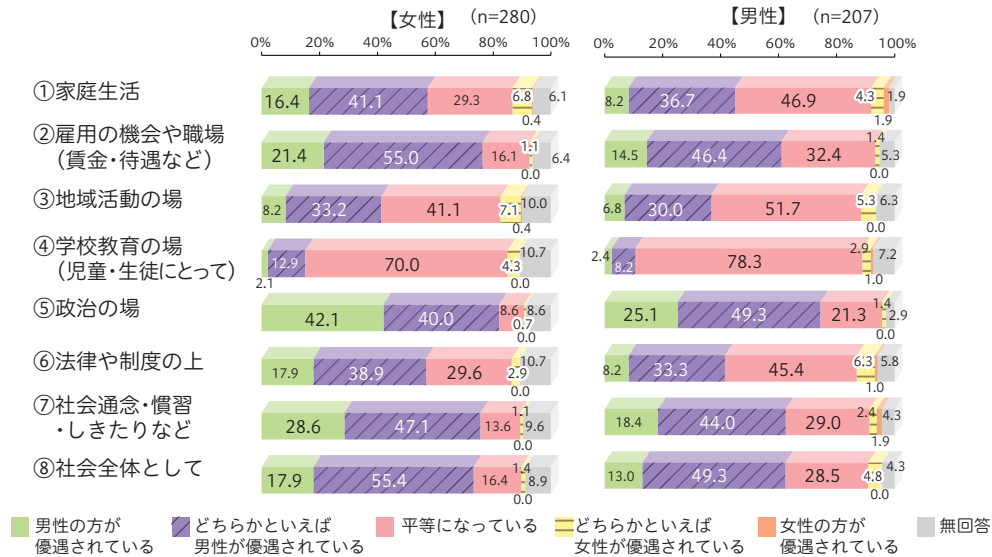




(2) 男女の地位の平等感

◇男女の不平等感が最も高いのは政治の場

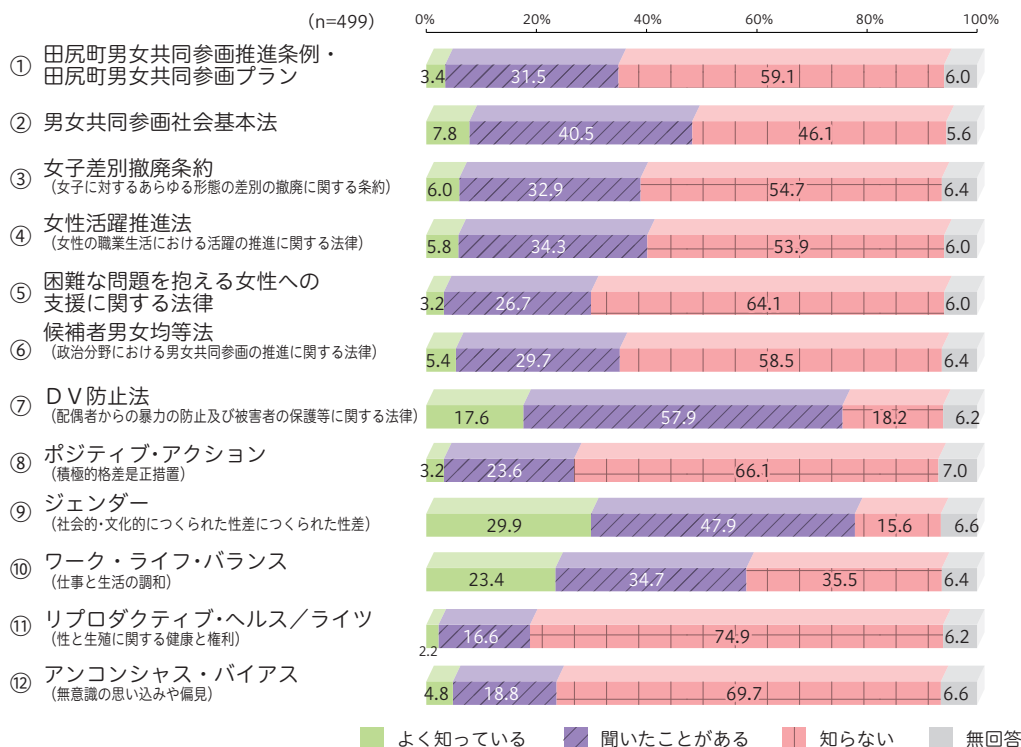
社会の各分野における男女の地位の平等感は、④学校教育の場では男女とも大半が「平等」と回答していますが、そのほかの分野では、全般的に男性優遇感が高く、なかでも⑤政治の場は特に高くなっています。また、いずれの分野も女性の方が男性に比べて、男性優遇感が強い傾向です。



(3) 男女共同参画に関する用語の認知度

◇ジェンダー、DV防止法、ワーク・ライフ・バランス以外の認知度は半数以下

用語の認知度(「よく知っている」と「聞いたことがある」の合計)が高いのは、⑨ジェンダー(社会的・文化的につくられた性差)、⑦DV防止法、⑩ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)では5割以上ですが、そのほかの項目では認知度は5割未満で、特に低いのは、⑪リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)です。





(4) 田尻町の環境・取り組みについて

◇保育・子育て支援の町の取り組みに高い評価

田尻町の取り組みについては、⑤保育・子育て支援に対する評価が特に高く、ほとんどの項目で肯定的意見が否定的意見を上回っています。

【田尻町の環境・取り組みについての肯定的意見と否定的意見の割合】

肯定的意見(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)、否定的意見(「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計)

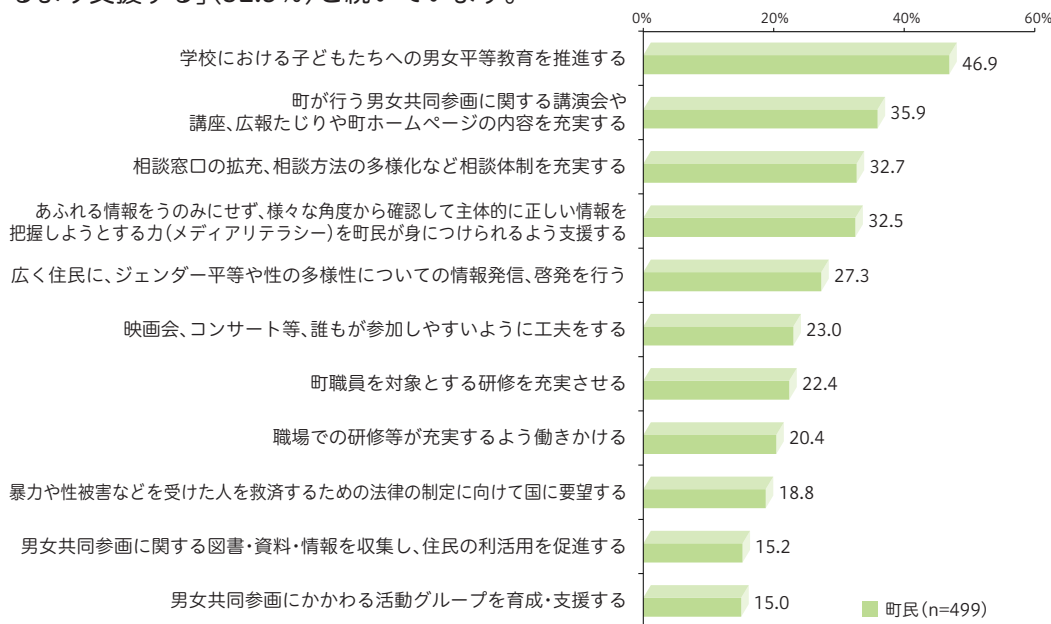
	(%)	肯定的意見	否定的意見
①男女共同参画に対する理解がいきわたっている		11.4	31.8
②女性が働きやすい環境が整っている		20.4	20.0
③女性の地域活動への参加環境が整っている		25.2	15.2
④介護者の負担を軽減するための支援がある		32.3	15.4
⑤保育・子育て支援がある		63.7	6.6
⑥男性が家事・育児などを学ぶ機会がある		14.6	26.2
⑦学校で男女平等への意識が育てられている		29.0	10.8
⑧自治会や職場で女性に重要な参加機会がある		23.8	13.6
⑨配偶者等からの暴力やセクシュアル・ハラスメントを受けたときに相談できる相手や場がある		20.6	17.2

■：肯定的意見が否定的意見を上回っている。 ■：否定的意見が肯定的意見を上回っている。

(5) 男女共同参画社会づくりを進めるために田尻町が取り組む必要があること

◇学校における男女共同参画教育への期待が大きい

「学校における子どもたちへの男女平等教育を推進する」が46.9%で最も高く、「町が行う男女共同参画に関する講演会や講座、広報たじりや町ホームページの内容を充実する」(35.9%)、「相談窓口の拡充、相談方法の多様化など相談体制を充実する」(32.7%)、「あふれる情報をうのみにせず、様々な角度から確認して主体的に正しい情報を把握しようとする力(メディアリテラシー)を町民が身につけられるよう支援する」(32.5%)と続いています。



誰もが自分らしくのびやかに暮らせるまちをつくるためのアンケート調査

— 田尻町男女共同参画社会づくりに関する意識調査 — 結果報告書 概要版

2024(令和6)年3月 大阪府田尻町(総務部企画人権課)

〒598-8588 大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺 375 番地 1

TEL(072)466-5019 FAX(072)466-8725 E-mail: kijin@town.tajiri.osaka.jp

